

番外編

# おおさか ウォッチング



東日本大震災で猛威を振るった大津波。もし、海拔ゼロの地域が広がる大阪の街を襲ったら――。東南海・南海地震の発生確率が30年間で60～70%と

言われるなか、大災害への備えが重要性を増している。3月11日以後、注目を集めている大阪府の「津波・高潮ステーション」を訪れた。(新聞部)

## 津波・高潮ステーション

### 海より低い大阪の街

津波・高潮ステーションは、津波・高潮災害の普及啓発や災害時の防災拠点とすることを目的に、府が約6億円を投じ、2009年9月にオープンした。震災後、橋下知事が記者会見で、「皆さんも一度、ぜひ行ってください。津波の恐ろしさが体感できる」と絶賛した。

館内に入ると高さ2.5mのコンクリートを横にした壁が目飛び込んできた。壁の間からは、民家の2階部分が見えている。この壁は防潮堤で、奥の住宅は海拔ゼロの地域をイメージしてつくり出した。高潮被害を防ぐ防潮堤の役割と、海面よりも低い位置で生活していることが分かるようになっていきます」と話すのは、西大阪治水事務所の中隆史さん。特別に案内してもらった。

大阪府では、満潮時に海面以下になる海拔ゼロの地域が臨海部や淀川周辺、北河内の一部などに広がっている。ゼロの地域の面積は41平方キロ、甲子園球場1025個分。防潮堤の高さは室戸台風の潮位も防げるというが、昨今の大規模な

# 大阪襲う大津波を体験

ここまで見てきて、ふと疑問に思ったことがある。大阪湾の埋め立て地にそびえ立つWTCビル(現・大阪府咲洲庁舎)は、来る震災に耐えられるのだろうか。5・5級の津波は、臨海部の大型貨物船やコンテナ、クレーンなど、あらゆるものを押し流しながら凶器となってWTCに襲いかかる。内陸と咲洲をつなぐ海底トンネルが水没し、橋も地下鉄も通行停止となり、「孤島」に……。これくらい容易に想像できる。そもそも、東日本大震災の震度3の揺れでWTCが多数の被害を出したことを考えると、たと

## WTC 想像できる機能不全

え耐震補強しても地震で大きな損壊を受けられることほ明らかだ。WTCが機能不全を起し、二次災害・三次災害を誘発して被害を拡大する最悪のシナリオが思い浮かぶ。

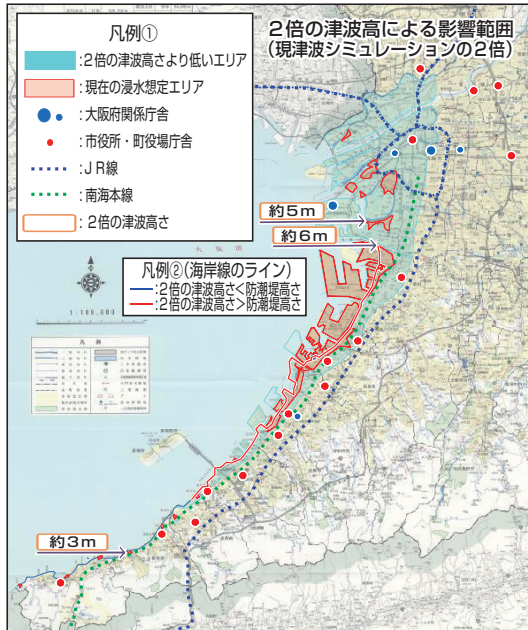
それでも橋下知事は、震災後の府議会でも「津波があれば指揮官は見るところから指示を出すのが重要。WTCの頂上から指示を出す」と主張。WTCを防災拠点の一つにするとし、6月29日の政

### 防災拠点にならない

治資金パーティーでは「大阪府は日本の副首都を目指す。WTCは(大阪都の)都庁舎にさせてください」とまで宣言するなど、相変わらずな態度だ。

橋下知事は、もともと防災への意識が希薄だ。WTC移転を提案した2008年12月11日の本会議で、震度5で地下鉄や咲洲トンネルが通行停止になることを共産党府議に指摘され、「知事はそんな細かいことまで知る必要がない」と一蹴している。府民886万人の命と安全を守る知事として、これでは無責任と批判されても仕方ないだろう。

橋下氏が首長の間に、東南海・南海地震が起こることがないよう願ひながら、知事「オススメ」の津波・高潮ステーションを後にした。



府がシミュレーションした2倍の津波高による影響範囲

### 地震に対する10の心得

1. まずは、わが身の安全を守れ！  
デスクやテーブルの下にもぐり、クッションなどで頭を守りましょう。
2. ドアや窓など、出口を確保！  
揺れが起きたら、すぐに玄関ドアや窓を開けて脱出口を確保しましょう。
3. すばやく、火の始末を！  
揺れがおさまったら、使用中のガス器具やストーブをすばやく消しましょう。ガスの元栓も締めましょう。
4. 火がでたら協力して消火！  
万一、出火したら大声で隣近所に声をかけ、消火活動を。ボヤのうちに消し止めましょう。
5. 避難は徒歩で。持ち物は必要最小限に！  
援助物資は、すぐには届きません。飲料水・食品など非常用備品は、各家庭で備えておきましょう。懐中電灯・携帯ラジオ・ライターは、最低限用意しましょう。
6. あわてて外に飛び出さない！  
家の外も、危険がいっぱい。落ち着いて、確かめながら行動しましょう。
7. けがをしたら、協力して応急処置！  
軽いけがなどは、家族や地域住民で協力合って応急処置を施しましょう。
8. せまい路地や川べりに近寄らない！  
路地や堀ぎわは倒壊の恐れがあり、危険です。また、川べりは地盤がゆるんでくずれやすいので、自分で状況を見定め避難しましょう。
9. 津波や山くずれ・崖くずれに注意！  
ラジオなどで津波情報を入手しましょう。また、山くずれや崖くずれが起こりやすくなっているので、自分で状況を見定め避難しましょう。
10. 正しい情報の入手を！  
テレビやラジオ、防災スピーカーや広報車などを通じて正しい情報を入手し、冷静に行動しましょう。

大阪府「防災のしおり」から作成

害を目的の当たり前にしている住民の不安は、決して小さくないだろう。

室戸・シエン・第2室戸の三大台風を振り返る「高潮被害トンネル」や、実物大の防潮鉄扉などの展示をあげる、津波コーナーに入る。この「ウリ」は、コンピューター・グラフィックスで津波被害を体感できるシミュレーターだ。津波を正面、左右、足元と4面に映し出す。

### 中心部がほぼ水没

地震発生から約1時間、津波はしづきを上げながら大阪湾入り口の岬町に到達。津波は湾の奥に近づくにつれて高く

なり、ごう音と共に大阪市内に迫る。さまざましい勢いで街を飲み込んでいく。東日本大震災のニュース映像さながらだ。3Dではないが、迫力満点だ。

府の想定では、東南海・南海地震の津波の高さは約3.5m(満潮時)。沿岸部には防潮堤が整備されており、浸水被害はごく一部に限られるとしている。中山さんは「ミスリードしてはいけないので」と、被害の前提条件を話してくれた。

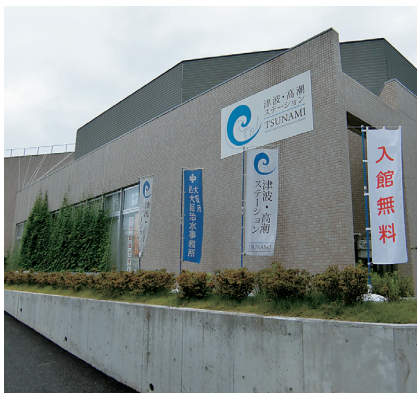
府は、マグニチュード(M)8.4、8.6クラスの地震を想定。地震での防潮堤の損壊はなく、防潮鉄扉が閉じられなかったケースで被害をまとめた。「東日本大震災を受けて、中央防災会議が東

南海・南海地震の被害想定を再検討しています。結果を踏まえながら、府の防災対策も見直すことになりました」。府は現在、従来の2倍の高さの津波でシミュレーションし、検討している。(地図)

東日本大震災では、M9の地震による巨大津波が多くの防潮堤を破壊した。中央防災会議専門部会長・河田恵昭氏(関西大学教授)の試算でも、M9クラスの南海地震で5.5級の津波が発生し、大阪市内では府本庁舎がある上町台地を除くほぼ全域が水没。高槻市や八尾市などでも被害を受けるとしている。最悪のケースを想定して防災対策にあたるのが急務だと、強く感じた。

津波から身を守るには、高いところに避難するしかない。特に注意しなければならないのが、地下街や地下鉄だ。中山さんは「地震発生から津波が大阪市内に到達するまで約2時間。逃げる時間は十分あるので速やかに地上に出て避難することが大切です」と訴える。しかし、地下施設の運営・管理会社によっては、津波時の避難計画を策定していないところも少なくないのが現状とか。都市型災害特有の課題であり、一刻も早い対策づくりが求められている。

館内には、津波の仕組みを解説する展示や、クイズで津波対策を学ぶコーナーも。「見て、感じて、学べる」空間だ。



津波・高潮ステーション

【住所】大阪府西区江之子島2-1-64

【開館】午前10時～午後4時

【休館】月曜(休日の場合は翌平日)、年末年始

【入館】無料